

まちの羅針盤

埼玉県熊谷市

航海に地図と羅針盤が必要のように、地域づくりにも現状を示す客観的なデータが欠かせない。今回は、埼玉県北部の拠点都市で、人口19万人を擁する熊谷市について、産業構造の現状と可能性を踏まえ、まちの羅針盤(地域づくりの方向性)を考えたい。

まちづくりのスタートアップ呼び込みを

短約40分の距離にあり、江戸時代から中山道の宿場町と平均13.8%も上回り、将来の負の遺産が積み上がっている。域外本社への利益移転による影響は、住民所得が低下するだけではない。それに伴って本社機能のな仕事が増え、外に流出することが大きな課題である。

「人口流出に歯止めがかからなかったのは、若者や女性の流出に関する問題の根源の一つである地域に魅力的なエッセンスに富む魅力的な職場を提供できていないといえる。」

また、こうした取り組みの効果を、リノベーションなどとしてまちづくりのスタートアップを呼び込むこと、こうした地域全体のマネジメン

産業都市の強みと弱み

「暑い町」として知られる熊谷市は、荒川と利根川が流れ、豊富な水と自然がありながら交通アクセスにも優れている。17号など4本の国道が通るほか、秩父鉄道やJR高崎線、上越・北陸新幹線が走り、東京駅まで最

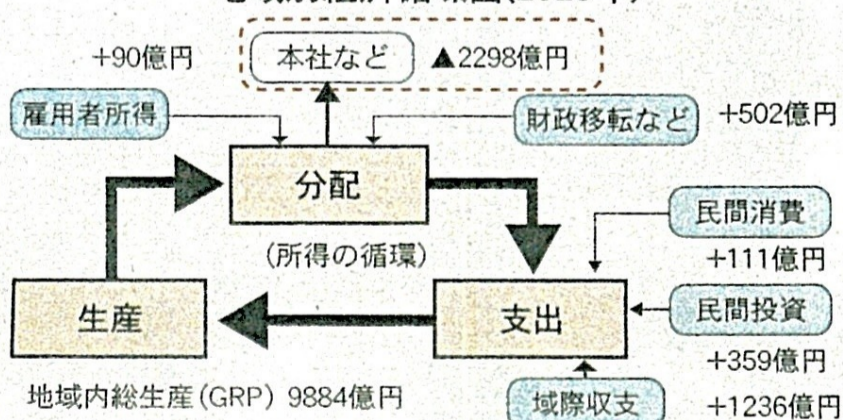
超(全国平均935万円)を誇る埼玉県内トップクラスの産業都市である。「生産↓分配↓支出」と所得が流れる地域経済循環を見ても、ヒトが集まるから民間消費が、モノが集まるから民間投資が、貿易黒字でカネが集まるから

これらの要因はさまざまであるが、分配段階で域外の本社に巨額の利益移転が生じている結果、住民1人当たり所得が420万円と全国平均427万円を下回っていることも、その一つであろう。工場などがあって労働生産性は高いが、都市圏にある域外本社に利益が分配されるため、住民の実際の所得は低いという地方産業都市の典型的な経済循環構造

熊谷市の産業別純移転輸出額を見ると、本社の経営企画に相当する「専門・科学技術、業務支援サービス業」や「卸売業」などが移転輸入産業となっており、仕事も域外に流出していることが分かる。また、「化学」が移転輸出額の3分の2を、地域GDPの4分の1を占めており、産業都市の内実は、多様な性に乏しい「化学」一強の経済構造で、バラ

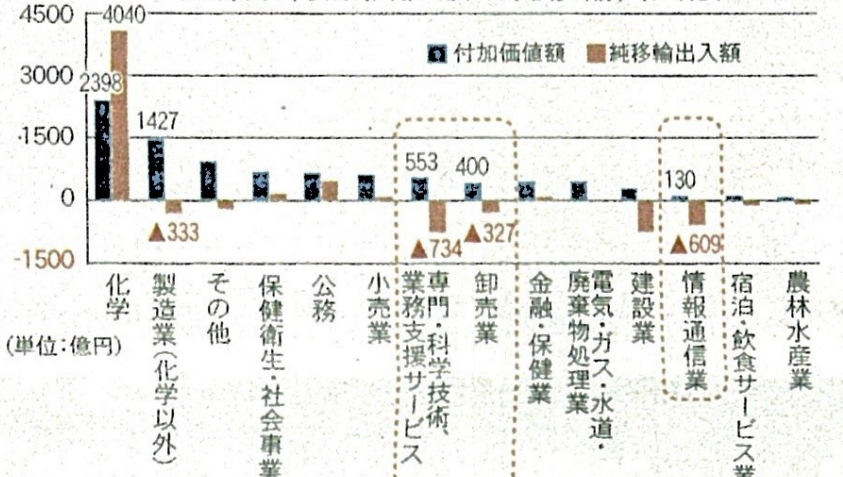
また、こうした取り組みの効果を、リノベーションなどとしてまちづくりのスタートアップを呼び込むこと、こうした地域全体のマネジメン

地域別経済循環図(2020年)



(出所) 環境省・価値総合研究所資料より筆者作成

産業別付加価値額と純移輸出入額



(出所) 環境省・価値総合研究所資料より筆者作成

産業都市としての強固な基盤があるからこ

・鶴殿裕